

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社陽春		
事業所名	グループホーム陽春		
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目16番3号		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数なので、一人ひとりの健康状態等の変化にも早く気づき 利用者や職員のコミュニケーションもうまくとれています。職員も入れ替わりが殆どなく、利用者ともなじみの関係が確立しています。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受け、利用者の健康状態を把握しています。食事は三食とも手作りで、料理の温度も大切に、家族同様の家庭料理を提供しています。庭先に次々に咲く花等を楽しみながら リビングでは笑い声がたえないホームです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット5名の少人数のグループホームで、職員の定着もよく、利用者・家族・職員が馴染みの関係を築いている。生花や利用者と一緒に製作した季節・節句の作品を飾り、季節感を取り入れた家庭的な生活環境である。献立から手作りの食事提供を継続し、季節感や盛り付けの彩りにも配慮し、行事食・誕生日の希望メニュー等、「食」の楽しみを大切にしている。日々のミーティング・ケア会議・サービス担当者会議で職員間の連携に努め、利用者の現状に即した個別支援に反映している。24時間連絡体制の訪問診療と訪問看護による医療連携体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している 入職時には理念について説明している	事業所独自の理念を作成し、「地域の人達とふれあいながら『楽しみ』と『生きがい』のある生活をしていただきます」という地域密着型サービスの意義を明示している。入職時に説明すると共に、玄関に掲示し職員・家族・来訪する人との共有を図っている。日々のミーティングや介護計画作成時には理念に立ち戻って話し合い、利用者個々の生活の中で理念が実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧で地域の行事や活動の案内がある、年末には歳末パトロールにも参加し、地域の人達とも交流している 恒例の花見や夏祭りはコロナ禍で中止となる	自治会に加入し、回覧板による地域の情報の案内がある。自治会副会長(民生委員)の協力により地域とのつながりを深め、地域の介護相談にも対応している。年末の歳末パトロールへの参加、子ども110番活動、ボランティア受け入れのマイレージ登録を継続している。通常は近隣の公園での花見会や夏まつりに利用者と共に参加しているが、令和2年度から開催が休止されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空床の問合わせや相談には快く応じているが 地域の人々にもっと積極的に話し合っていきたい		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、地域の催しの案内や利用者の近況等話し合っってサービスの向上につなげている。コロナ禍で中止の時もあるがその時は、それぞれに近況を聞いて記録している。身体拘束についても話し合っている 会議録は希望者には見てもらっている。	家族代表・自治会長・自治会副会長(民生委員)・地域包括支援センター職員・施設長を構成メンバーとして、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍以前は、利用者と参加者が交流する時間も設けていた。会議では、利用者状況、事業所の行事・活動、感染症対策等について報告し、身体拘束適正化委員会を実施し、参加者一人ひとりから意見や情報を聴いている。コロナ禍で会議の開催が困難な場合は書面会議とし、事前に構成メンバーから意見を聴き、報告事項と共に議事録を作成している。	議事録は、掲示・設置等により公開することが望まれます。書面会議の際は、作成した議事録を構成メンバーに郵送してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、利用者の状況や事業所の活動を伝え連携を図っている。保護課のケースワーカーとも協働して、利用者支援している。地域包括支援センターよりFAXがあり「徘徊SOS」にも協力している。	運営推進会議を通して地域包括支援センターと連携している。保護課のケースワーカーと協働し、利用者を支援している。市の「徘徊SOS」ネットワークにも協力している。市から、メール等でコロナ関連の情報提供があり、事業所の感染予防対策に活かしている。質問や相談等があれば、市役所の窓口に出向き指導や助言を受けている。通常はグループホーム連絡会にも参加しているが、休止している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員が理解しており玄関の施錠は、やむを得ない場合のみ行っている 利用者の安全確保の為、身体拘束を行った事はあるが、その時は家族の同意も得て記録も残している	「身体的拘束適正化のための指針」を作成している。2ヶ月に1回開催する運営推進会議の中で「身体拘束適正化委員会」を行い、構成メンバーと共に適正化に向けた検討を行っている。職員に運営推進会議の議事録を回覧し、委員会の内容の周知を図っている。年間研修計画に沿って、年に1回「身体拘束適正化」研修を行い、令和3年度は、研修の中で事例検討を行った。夜間以外は、基本的には玄関の施錠は行っていない。	議事録の回覧印などにより、身体拘束適正化委員会の内容について職員の周知を明確にすることが望まれます。

グループホーム陽春

評価項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について皆で勉強して、虐待防止に努めている	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度と日常生活自立支援事業についての研修に出席し、その内容を他の職員にも説明している 必要な方にはそれらを活用していきたい	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を丁寧に説明して、了承を得た上で契約している	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には積極的に声かけ、介護記録を読んでもらい利用者の日々の様子を詳細に伝え意見・要望が出しやすい様、配慮している 「ご意見箱」を玄関に設置している	月に1回程度家族の面会があり、面会時に、口頭で近況を伝えたり、介護記録を読んでもらい利用者の日々の様子を詳細に伝え、意見・要望の把握に努めている。玄関に「意見箱」も設置している。月に1回「陽春だより」を郵送し、行事の様子等を写真入りで伝えている。家族からの伝達事項等があれば、毎日のミーティングと連絡ノートで共有している。利用者の意見・要望は、日々の生活の中で聴き、都度対応している。運営推進会議で、家族が外部者に意見を表す機会も設けている。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼食後の休憩時間を利用してミーティングを行い、お互いに意見や要望を出し合い運営に反映させている	毎日の業務の中や昼食後にミーティングを行い、施設長も参加して、利用者のケアや業務について意見・情報交換し、共有事項については連絡ノートで共有している。2か月に1回のケア会議で全利用者の状態や支援内容を共有して必要な検討を行い、介護計画見直しの際は担当者会議で話し合い、職員の意見をケアや介護計画に反映している。

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日のように現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握して外部研修へ参加する機会を持てる様にしている、事業所内では介護技術の相互研修も行い、ケアの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接会うのは難しいが、電話で意見交換してサービスの質の向上を目指している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き 安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、柔軟に対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等暮らしの中で分かち合い支えあっている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、本人と家族との絆を大切にしながら本人を支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、訪問もなかなか難しく、御家族のみ玄関先で面会されている。これからも交流が継続できるよう支援していく。馴染みの場所については家族との外出を支援している	通常は、家族の来訪時には、居室でゆっくり過ごせるように配慮し、馴染みの関係継続を支援している。馴染みの場所への外出は家族が行い、事業所は外出しやすいように準備等を支援している。コロナ禍のため、外出は休止しているが、家族との面会は、感染予防対策を行いながら、玄関先で行い、可能な方法で馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて電話等で相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の利点を活かし一人ひとりの思いや希望は充分把握でき 細かな悩みや質問にも何度でも答えている 意思表示のできない利用者には心の声を聴けるよう努力している	入居時に把握した利用者・家族の思いや暮らし方の意向は、「アセスメントシート」に記録している。入居後は、日々の会話の中で把握に努めている。最近は、把握の困難な利用者が多くなり、生活の様子や表情から汲み取ったり、家族の意見を参考にして把握に努め、ミーティングやケア会議で共有している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方から生活歴やサービス利用の経過等、詳しく聴き、馴染みの暮らしが出来るよう心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、心身状態の把握に努め「今できること」「したいこと」を考慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム開設当初から職員が殆ど変わらず、長年に渡り本人と接し、その人その人の現状を把握し意見を出し合い介護計画に反映している 6ヶ月に一度見直しモニタリングを行っている	入居前情報や面談で得た利用者情報を「全体状況アセスメント」「利用者基本情報」に収集し、「アセスメント要約表」で個別ニーズの把握・検討を行い初回の「介護計画」を作成している。初回の「介護計画」は3ヶ月後に更新し、以降は定期的に6ヶ月毎に見直しを行っている。職員が計画内容を周知できるよう「介護計画」を「介護記録」ファイルの最前面にファイリングしている。日々の生活状況や介護の記録は「介護記録」「ケアチェック表」に記録し、「介護記録」は詳細な記録を日中・夜間で色分け、医療面はアンダーラインで区別し、時系列にわかりやすい記録の工夫がある。「介護計画」の見直し時は「モニタリング表」で実施状況・目標達成度・評価を行い、「アセスメント要約表」で支援内容の必要度を再アセスメントし、担当者会議を実施している。利用者・家族の意向、職員の意見を反映し、現状に即した「介護計画」を作成している。	介護計画の目標設定の記述の工夫が望まれます。介護計画の見直しに際して、関係者（訪問診療医・訪問看護師等）の意見があれば、担当者会議議事録に残しておくことが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子と共に、その人らしい言葉使いでの表現も記入している職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日課を決めず、その日その日の要望に応じて柔軟な対応を心がけている 書類等の申請・代行も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療も24時間体制で、安心して適切な医療を受けられるように支援している 利用者の急変時には病院の看護師に連絡して医師の指示を受けている。週1回訪問看護も受けている。医療連携がとれる様、お互いにそれぞれの記録を読みサインももらっている	契約時、利用者・家族に今後の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。月2回の内科訪問診療は24時間体制で対応でき、週1回の訪問看護とともに全利用者が受診している。かかりつけ医や通院が必要な場合は家族の同行を基本としているが、依頼があれば職員が同行支援している。受診記録は「架け橋ノート」「訪問看護記録」に記録し、訪問医と訪問看護師は互いの所見内容を確認して医療連携を図っている。受診結果や医療関連は「介護記録」にも詳細に記録を残し、職員共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション ライフサポート春日より毎週1回来てもらい日常の健康管理について相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過ごせるよう、病院関係者と情報交換したり、早期退院に向けケースワーカーと相談している		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成して、利用者・家族に説明して同意を得ている、家族・主治医と充分話し合い、全員で方針を共有して対応していく	契約時に、重度化・終末期に向けた事業所の方針を「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って利用者・家族に説明し、同意を得ている。今まで重度化対応の事例はないが、重度化を迎えた時は家族や医師と繰り返し話し合いを重ね、家族の意向を職員共有して支援に取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は応急手当の訓練を年一回行っていたが、コロナ禍で中止している。今後もその時がきたら訓練を行いたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全計画を作成し、年2回避難消火通報訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている 自治会副会長より地域に事業所があることを説明してもらい災害時には協力してもらえる様お願いしている 災害時を想定して非常食を備蓄している	年2回、昼間・夜間想定で通報・避難・消火の総合訓練を実施している。令和3年度は6月・10月に利用者も参加して実施した事を記録から確認し、利用者が訓練に参加している様子は「陽春だより」で家族にも報告している。年2回の訓練で全職員が最低1回は参加し、利用者個々の身体状況に応じた避難誘導や方法を検討、周知している。災害に備えて自治会副会長兼民生委員を中心とした地域との協力体制を築いている。水・レトルト食等の非常用食料、カセットコンロ・懐中電灯等の備品類は施設長が備蓄表で管理し、倉庫に保管している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている。誇りを傷つけないように接して、自尊心の尊重に努めている。年間研修計画に「プライバシー保護の理解」を盛り込んでいる	毎年年間研修計画に沿って「プライバシー保護の理解」の研修を実施している。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声掛け・言葉遣い・対応がないよう職員間で周知徹底している。家族に郵送している「陽春だより」への写真使用については、契約時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。個人情報書類はカーテンを設置した棚に保管管理し、全職員は入職時に守秘義務について誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない会話の中から思いや希望を表せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。徘徊の見守り、お喋りの相手等、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪も資格のある職員が各人の好みに応じてカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食は特別メニューで祝ったり利用者の好みや希望を取り入れ、食事が楽しみになる様工夫している。職員も一緒に食べながら見守りしている。現在は食事の準備や片付けを一緒にする事は困難である	施設長が季節や行事、利用者の意向を反映した献立を作成している。利用者が過ごしているリビングの台所で3食手作りし、食器や盛り付けに配慮して目でも楽しめる食事を提供している。利用者個々の嚥下状況に応じてミキサー食にも対応している。利用者の誕生日には希望食でお祝いし、季節の行事ごとに、ちらし寿司・握り寿司・うなぎ等の特別食、時候が良い時は庭スペースで手作りお弁当食を企画する等、食事が楽しめるよう変化付けを行っている。現在は食事作りに参加する事は困難な状況だが、思い思いにおしぼり巻きに参加し、職員も同じ食事を利用者と共にし、家庭的な雰囲気が感じられる。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている 義歯の洗浄、消毒も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じてポータブルトイレを利用したり、時々尿失禁がみられる利用者には排泄パターンを把握して声かけ誘導をしている	排泄の自立度の個人差が大きい中、「ケアチェック表」で一人一人の排泄状況・排泄パターンを把握し、個々の状況に応じて誘導の声掛け、ポータブルトイレの使用、ベッド上でパット・おむつ交換介助を行っている。排泄の失敗や不快感を軽減し、トイレでの排泄に向けた自立支援に取り組んでいる。支援状況・課題・排泄用品についてミーティングで共有、検討し、現状に即した支援方法につなげている。周囲に配慮した誘導時の声掛けやドアの開閉等、利用者の羞恥心やプライバシーへの配慮を周知徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の入浴日(週3回)は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している 羞恥心へも配慮しつつ、安全の為に見守り介助して入浴を楽しむ支援をしている	「ケアチェック表」で個々の入浴状況を把握し、週3日の入浴日に体調や意向に合わせて週2～3回入浴できるよう支援している。個浴の一般浴はドアとカーテンで仕切りがあり、プライバシーに配慮している。同性介助で対応し、ほぼ自立の利用者に対しても見守りを行い、浴槽出入りが困難な場合はシャワー浴で対応する等、安全で気持ち良く清潔保持ができるよう支援している。入浴拒否時は無理強いせず、声掛けのタイミングを工夫する等して週1回は入浴できている。入浴を楽しめるよう、ゆず湯や菖蒲湯等で季節感を探り入れている。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動してもらって夜間は安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルして職員が内容を把握している 服薬時は見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野でお願い出来るような事を頼んだり 散歩や歌等一緒に楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせて近くでの散歩や、近所のスーパー等へ買物に行っていたが、歩行困難の人が増え、買い物へも行けなくなった 外出が難しい人は敷地内で外気に触れ気分転換が出来るよう支援している	通常は近隣の公園で季節を感じたり、スーパーへの買い物、地域行事のお花見・夏祭り等に参加して地域との交流を楽しんでいる。現在は外出を休止しているが、敷地内の庭にテーブルを設置してお弁当やお茶を楽しみながらおしゃべり、歌を歌う等して、外気浴や気分転換の機会を設けている。個々の身体状況に応じて車椅子を使用し、利用者の意向に沿った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金は、それぞれ財布に持っているが自分で買い物は出来ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は職員が段取りして本人に出してもらっている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングがあり普通の家庭のように台所で洗い物している様子や話し声が聞こえる空間づくりになっている 壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫している	一戸建ての施設内は家庭的な温かみがあり、衛生管理や温・加湿管理、換気が行き届いている。リビングにはテレビ前に炬燵仕様のテーブル席、コーナーにソファを設置し、思い思いの場所で居心地よく過ごせる環境を作っている。季節の生花、利用者と職員が共同制作した季節の壁飾りや行事の置物等で季節が感じられる。自宅同様の雰囲気の中、目が行き届く共用空間で職員は利用者の状況を見守り、利用者は思い思いに洗濯物たたみやおしぼり巻き等の家事に参加している。動線確保に考慮した家具類の配置、2階への階段には手すりを設置して昇降時は付き添い介助する等、安全面にも配慮している。屋外の玄関先でプランター植物を育て、庭スペースは外気浴を楽しむ場所として利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している	1階に3部屋、2階に2部屋の居室があり、ベッド・エアコン・カーテンが設置されている。各居室は窓からの自然光で明るく、利用者が不在の午前中には窓を開けて換気に留意している。家族の協力を得て、筆筒等の家具類、テレビ等の電化製品、寝具、人形・家族の写真等、使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、本人が落ち着いて居心地よく過ごせるよう支援している。居室ドアに表札と目印になるイラストを掲示し、部屋間違いで混乱を招く事がないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している 居室のドアには名札や目印になる絵等を貼り分かり易くしている		